



積水化学工業株式会社
2022年度(2023年3月期)
第1四半期

決算説明会

代表取締役 専務執行役員
経営戦略部長
上脇 太

2022年7月28日

2022年度 第1四半期実績および 上期見通し

為替レート	2021年度 1Q	2021年度 上期	2022年度 1Q	2022年度 2Q	2022年度 上期	2022年度 期初計画
前提	-	-	¥115/US\$ ¥131/€	¥133/US\$ ¥140/€	¥126/US\$ ¥136/€	¥115/US\$ ¥131/€
実績 *期中平均	¥109/US\$ ¥132/€	¥110/US\$ ¥131/€	¥130/US\$ ¥138/€	-	-	-

2022年度第1四半期 損益概要

- 増収、営業増益
- 為替差益により、経常大幅増益、最終利益についても増益確保
- 売上高は計画をやや上回って進捗、営業利益はほぼ計画通り

(億円)	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	増減
売上高	2,486	2,823	+337
営業利益	111	138	+27
経常利益	131	214	+83
親会社株主に帰属する 四半期純利益	125	146	+20

2022年度第1四半期 カンパニー別売上高・営業利益

■1Qは全社、各セグメントとも増収増益

- ・高機能P*: 自動車生産の停滞によりモビリティ分野は苦戦。原燃料高騰影響拡大も、「売値改善」「固定費抑制」でオフセット。為替差益効果も寄与し、計画通り増益確保
- ・住宅*: 新築受注は計画通り。部材高騰影響継続も、新築売上棟数増、平準化推進により計画をやや上回る進捗
- ・環境LL*: 市況は一定の回復。原料高騰影響継続も、「売値改善」によるスプレッド確保徹底。計画をやや上回り、1Q過去最高益を更新
- ・メディカル: 中国ロックダウンの影響受けるも、国内検査薬事業、医療事業が堅調に推移し、ほぼ計画通り進捗
- ・その他、全社: 計画通り進捗

(億円)	2021年度 1Q実績		2022年度 1Q実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	839	104	1,004	109	+165	+5
住宅	1,055	12	1,157	29	+101	+16
環境LL	442	4	490	15	+48	+11
メディカル	184	23	206	26	+23	+4
その他	8	▲23	19	▲27	+11	▲4
消去又は全社	▲42	▲9	▲53	▲14	▲11	▲5
合計	2,486	111	2,823	138	+337	+27

*高機能P=高機能プラスチックカンパニー *住宅=住宅カンパニー *環境LL=環境・ライフラインカンパニー

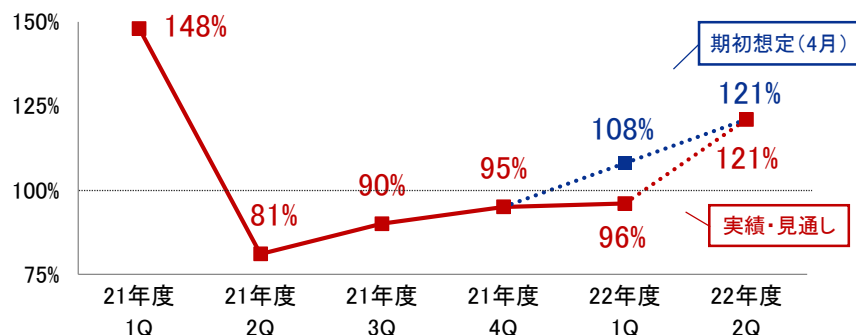
市況の前提

■ 自動車生産、スマホ需要は期初想定を下回る見通しも、自動車生産は2Qより一定の回復を見込む。原料は想定を上回る高騰継続の見通し

グローバル自動車生産台数

*前年同期比

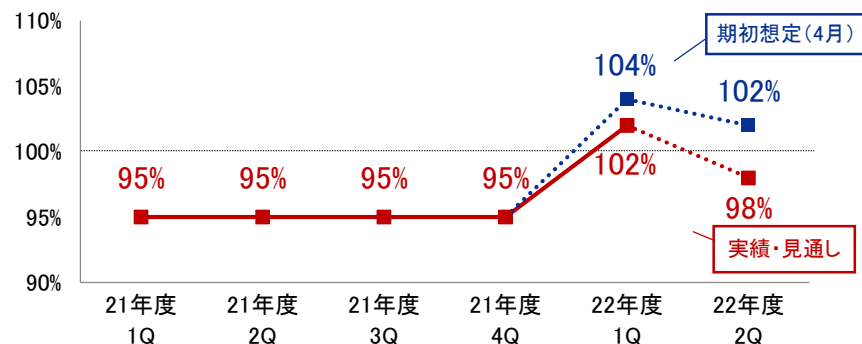
半導体不足影響は緩和されるも、中国ロックダウン影響、部材調達不足(欧州、日本)により期初想定を下回る見通し



スマホ出荷台数

*前年同期比

中国ロックダウン影響、一部スマホメーカーでの需要減を見込み、期初想定を下回る見通し



住宅・集客

*前年同期比

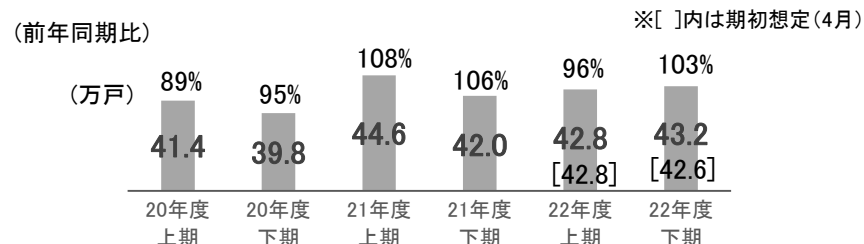
COVID-19再拡大による来店減はリスクも、WEBマーケティング強化でカバー

	1Q実績	2Q	上期見通し
集客全体	93%	101%	97%
資料請求(WEB等)	82%	101%	91%
展示場来店	106%	99%	103%

新設住宅着工

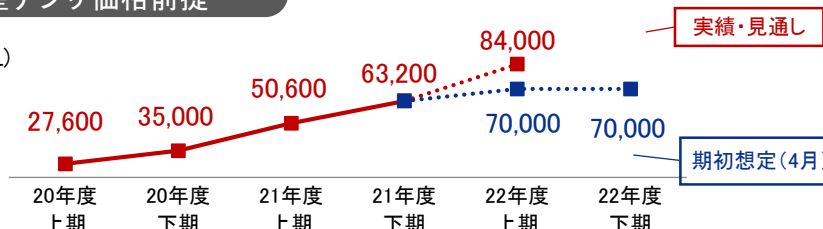
需要は緩やかな回復基調

※ 環境LL各製品の需要発現:住宅着工後4~6ヶ月



国産ナフサ価格前提

(円/KL)



2022年度上期見通し カンパニー別売上高・営業利益

■ 期初想定を上回る原燃料高騰を見込む。「売値改善」「高機能品拡販」「固定費抑制」に注力。為替差益効果もあり、営業利益計画を達成する見通し

- ・高機能P：原燃料高騰影響拡大、グローバル需要の停滞も、「売値改善」「固定費抑制」、及び為替差益効果により営業利益計画達成見通し
- ・住宅：部材高騰継続も、新築売上棟数増、「固定費抑制」により営業利益計画達成見通し
- ・環境LL：原料高騰継続も、引き続き「売値改善」によるスプレッド確保に注力。一定の市況回復(国内外)を見込む
- ・メディカル：米国COVID-19検査キット(新製品)承認遅延も、国内検査薬・医療事業が堅調に推移。「固定費抑制」も寄与

(億円)	2021年度 上期実績		2022年度 上期見通し		増減		2022年度 上期計画(4月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	1,701	193	2,063	215	+362	+22	1,907	215	+156	0
住宅	2,498	148	2,630	150	+132	+2	2,630	150	0	0
環境LL	961	32	1,077	50	+116	+18	1,051	50	+26	0
メディカル	397	49	428	60	+31	+11	419	60	+9	0
その他	19	▲52	48	▲60	+28	▲8	42	▲60	+6	0
消去又は全社	▲96	▲15	▲113	▲25	▲17	▲10	▲107	▲25	▲6	0
合計	5,479	355	6,133	390	+654	+35	5,942	390	+191	0

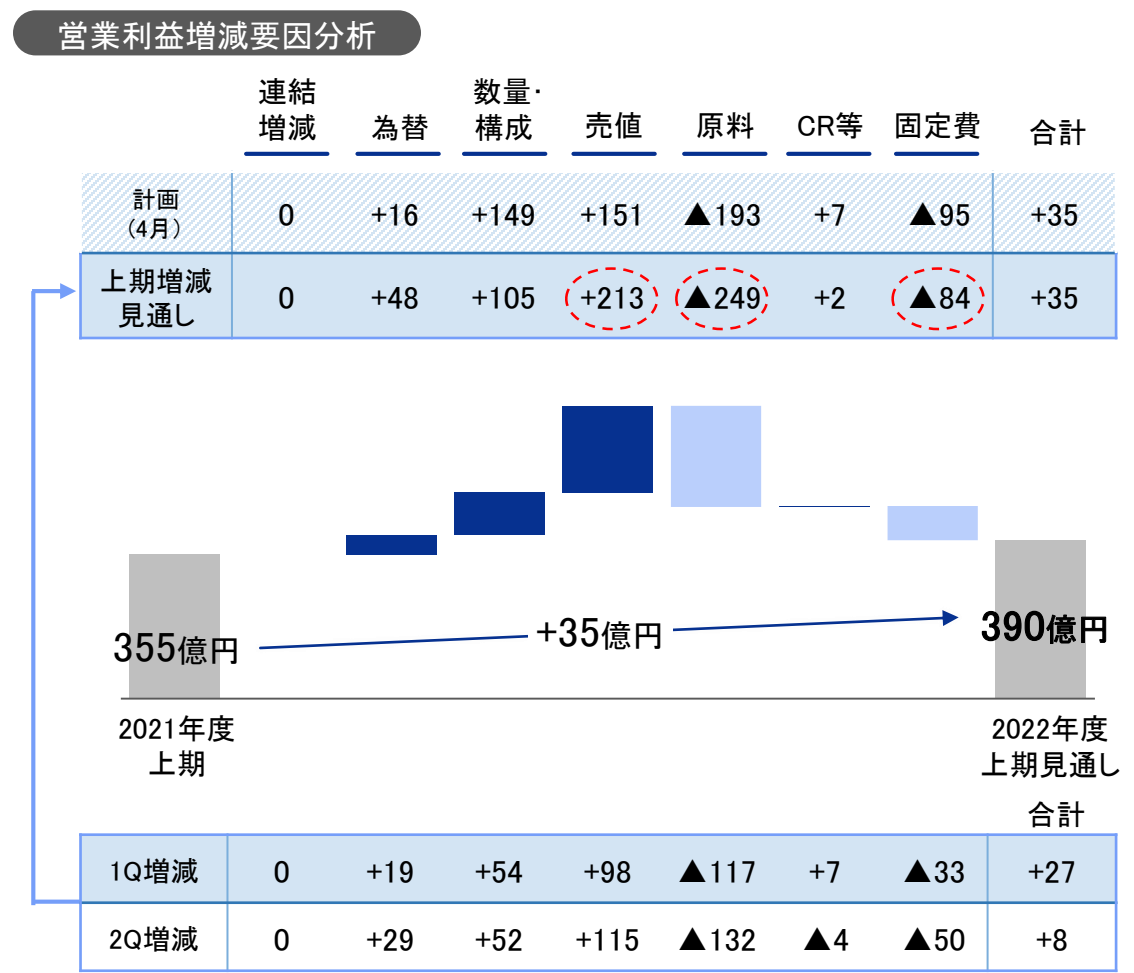
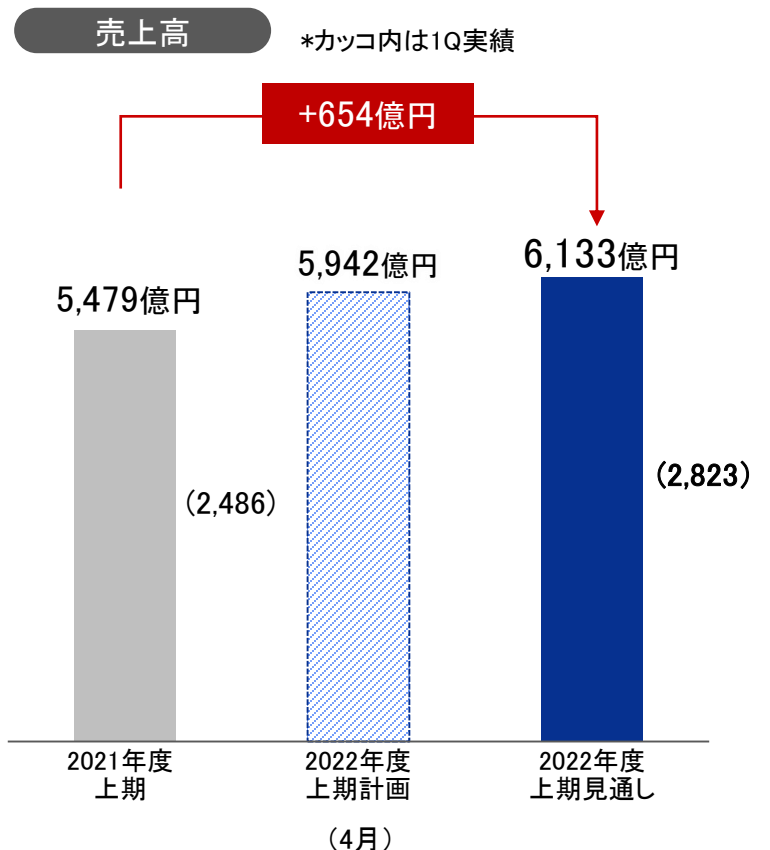
2022年度上期見通し カンパニー別売上高・営業利益(1Q、2Q別)

- 為替影響、売値改善を中心に売上高は計画を上回る見通しも、2Qは原燃料高騰拡大、グローバル需要の不透明感を折込み、営業利益は期初計画通り着地の見通し

(億円)	2021年度 1Q実績		2022年度 1Q実績		2021年度 2Q実績		2022年度 2Q見通し		2021年度 上期実績		2022年度 上期見通し	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	839	104	1,004	109	862	89	1,059	106	1,701	193	2,063	215
住宅	1,055	12	1,157	29	1,442	136	1,473	121	2,498	148	2,630	150
環境LL	442	4	490	15	519	28	587	35	961	32	1,077	50
メディカル	184	23	206	26	213	26	222	34	397	49	428	60
その他	8	▲23	19	▲27	11	▲29	29	▲33	19	▲52	48	▲60
消去又は 全社	▲42	▲9	▲53	▲14	▲54	▲7	▲60	▲11	▲96	▲15	▲113	▲25
合計	2,486	111	2,823	138	2,993	244	3,311	252	5,479	355	6,133	390

2022年度上期見通し 業績分析

■ 期初想定以上の原燃料高騰を、「売値改善」「CR」でほぼオフセット。「固定費抑制」及び為替差益効果により営業利益計画達成の見通し



2022年度上期見通し 損益概要

■売上高を上方修正

■営業利益については計画通り着地の見通しも、為替差益により経常利益、最終利益は上方修正

(億円)	2021年度 上期実績	2022年度 上期見通し	増減	2022年度 上期計画(4月)	差異
売上高	5,479	6,133	+654	5,942	+191
営業利益	355	390	+35	390	0
経常利益	410	460	+50	410	+50
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲39	310	+349	275	+35
配当 (円/株)	24	26	+2	26	0

2022年度見通し 損益概要

- 売上高、経常利益、最終利益は上方修正
- 営業利益については計画通りの見通し

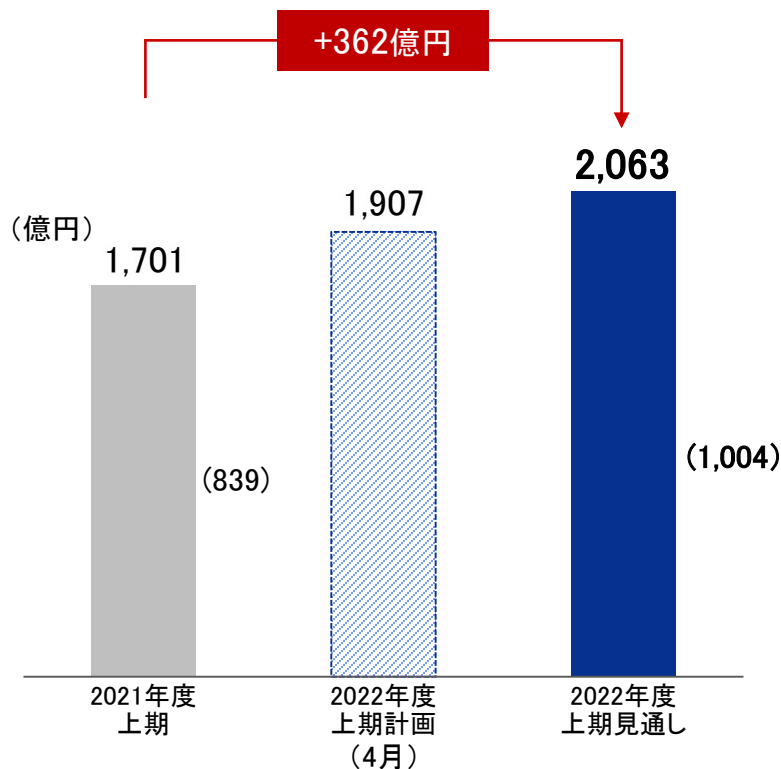
(億円)	2021年度 実績	2022年度 見通し(7月)	増減	2022年度 計画(4月)	差異
売上高	11,579	12,607	+1,028	12,416	+191
営業利益	889	1,000	+111	1,000	0
経常利益	970	1,050	+80	1,000	+50
親会社株主に帰属する 当期純利益	371	700	+329	665	+35
配当 (円/株)	49	53	+4	53	0

高機能プラスチックカンパニー 上期業績見通し

■ グローバル需要(自動車生産・スマホ生産)の停滞、原燃料高騰影響拡大も「売値改善」「高機能品へのシフト」「CR」等でオフセット。「固定費抑制」、為替差益効果により、上期営業利益計画達成の見通し

売上高

*カッコ内は1Q実績



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計	
計画 (4月)	0	+13	+33	+91	▲90	▲3	▲23	+22	
上期増減見通し	0	+42	+7	+143	▲143	▲9	▲18	+22	
エレクトロニクス+10、モビリティ+30 住インフラ材+80、産業+20									
LNG影響▲23									
2021年度 上期	+22億円							193億円	215億円
限界利益 ▲2億円									
2022年度 上期見通し								合計	
1Q増減	0	+18	+3	+67	▲70	▲4	▲9	+5	
2Q増減	0	+24	+4	+76	▲72	▲4	▲10	+17	

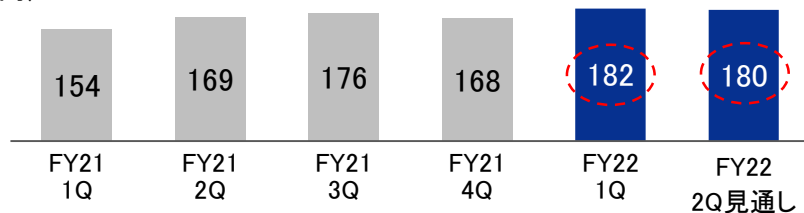
■自動車生産、スマホ需要とも期初想定を下回るも、建材関連需要は堅調に推移。売値改善、高機能品拡販に注力。為替効果もあり、戦略3分野とも大幅増収の見通し

戦略3分野の売上高推移と進捗状況

エレクトロニクス

- 液晶分野: パネル需要減が顕在化する見通し(2Q)
- 非液晶分野: 半導体向けを中心に総じて堅調

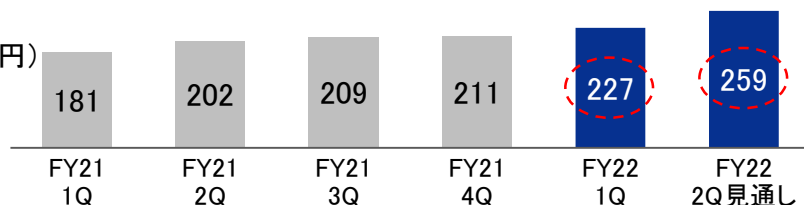
(億円)



住インフラ材

- 塩素化塩ビ樹脂: インドを中心に堅調な需要継続。売値改善も計画通り
- 耐火、不燃材料: 国内住宅市況回復。計画通り進捗

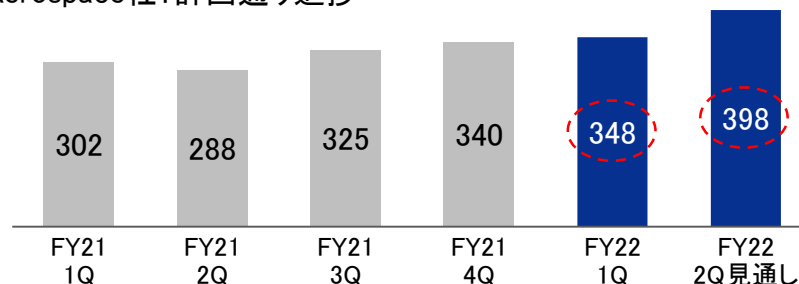
(億円)



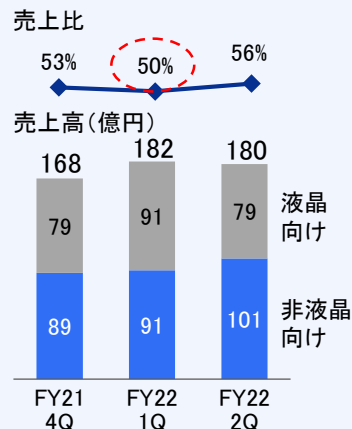
モビリティ

- COVID-19影響(中国)、部材不足(欧州、国内)による自動車減産影響拡大。HUD膜を中心とした高機能膜拡販に引き続き注力 (HUD膜 115%超 *販売量ベース)
- Aerospace社: 計画通り進捗

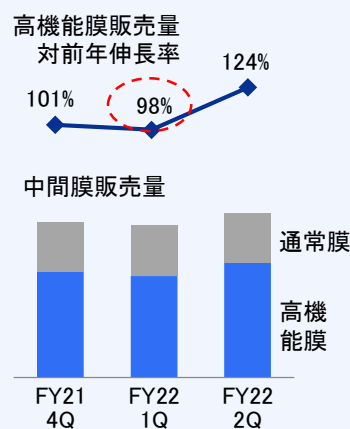
(億円)



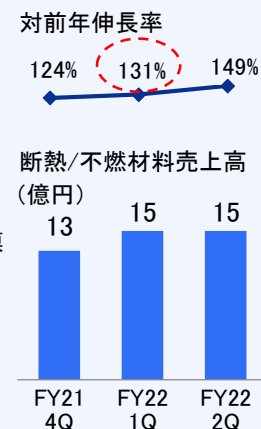
【非液晶分野注力】



【高機能中間膜拡販】



【断熱/不燃材料拡販】



住宅カンパニー 上期業績見通し

■新築受注は堅調に推移し、売上棟数増。引き続き部材高騰も、「固定費抑制」により、営業利益計画は達成の見通し

- ・住宅：1Q受注は計画通り。コスト削減、棟単価UPに取り組み、売上、利益はほぼ計画通り
- ・リフォーム：1Qは部材遅延影響があるも、平準化等により収益が改善。売上、利益は計画通り
- ・その他：買取再販(Beハイム)伸長、まちづくり事業も順調に進捗

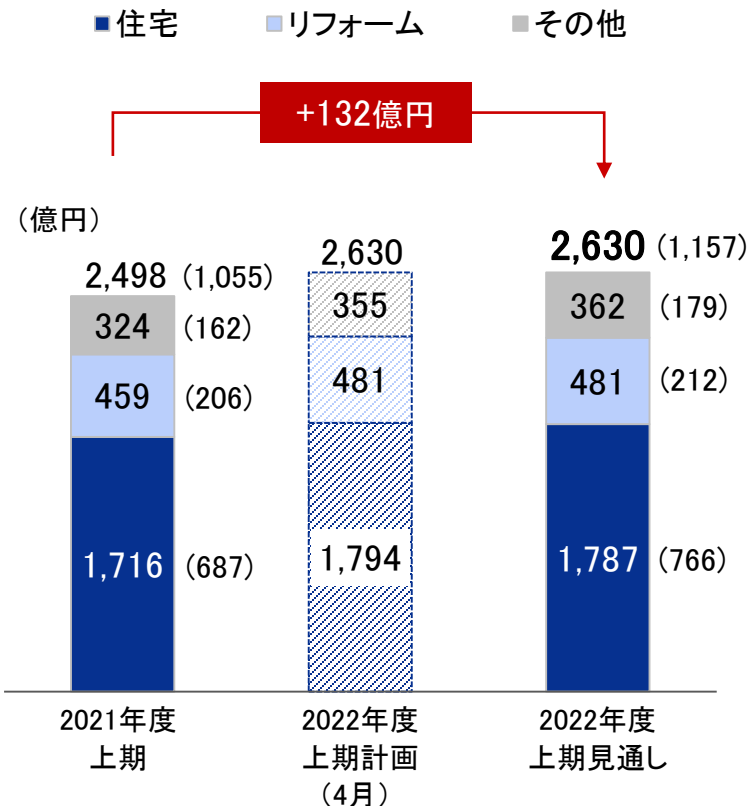
受注実績・計画

	1Q実績	2Q見通	上期見通	計画(4月)
住宅受注棟数	100%	101%	100%	100%
リフォーム受注額	104%	112%	108%	110%

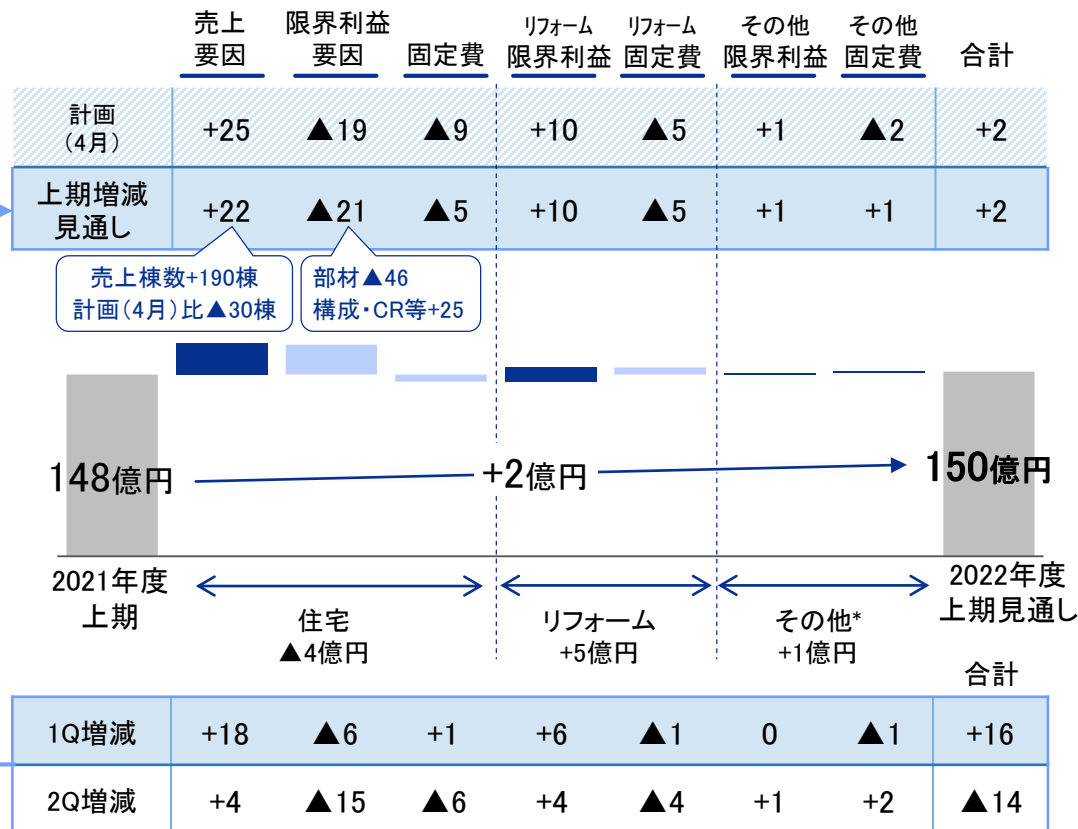
*%は前年同期比

事業別売上高

*カッコ内は1Q実績



営業利益増減要因分析



* その他(不動産・まちづくり・海外・住生活・でんき)

WEB活用等による新規顧客の接点強化、スマート訴求徹底による棟単価UPに注力

集客・受注推移

*%は前年同期比

集客

	1Q実績	2Q	上期見通し
集客全体	93%	101%	97%
資料請求(WEB等)	82%	101%	91%
展示場来店	106%	99%	103%

・2Q: COVID-19再拡大による来店減はリスクも、WEBマーケティング強化でカバー

建築種別受注棟数

	1Q実績	2Q	上期見通し	
戸建	建替	100%	110%	105%
	*1新築	94%	97%	96%
	自社分譲	102%	103%	103%
	うち建売	110%	102%	106%
トータル(集合含む)	100%	101%	100%	

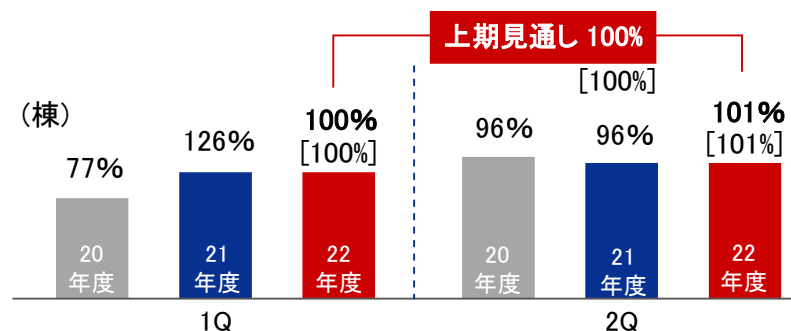
*1 土地 施主手配

受注実績・計画

*%は前年同期比

新築受注棟数の推移

※[]内は期初計画(4月)



2022年度上期受注獲得施策

集客戦略

- リアルとデジタルを融合した創・育客手法の磨き上げ
 - ・ WEBマーケティング強化
 - ・ 会員制サイト「ハイムフェス」全国展開

商品戦略

- 圧倒的なスマート&レジリエンスの追求
 - ・ ZEHやソーラー、蓄電池の提案強化
 - ・ 平屋・積雪エリア・集合住宅への展開

土地戦略

- 戸建まちづくりを軸とした分譲・建売の積極投入
 - ・ 1Q新規売区画数: 前年比108%(うち建売122%)
 - ・ 50周年PRJ(全26PRJ/990区画)の拡販加速

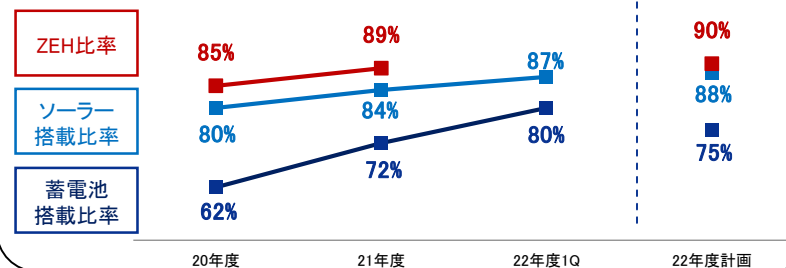
- ・ 体感・体験施設の展開拡大と活用強化
ミュージアム+GREENMODEL PARK: 64拠点(22.9末見込)

- ・ 木質系商品「GTU-V GREENMODEL」発売(7月)

スマートハウス関連指標*

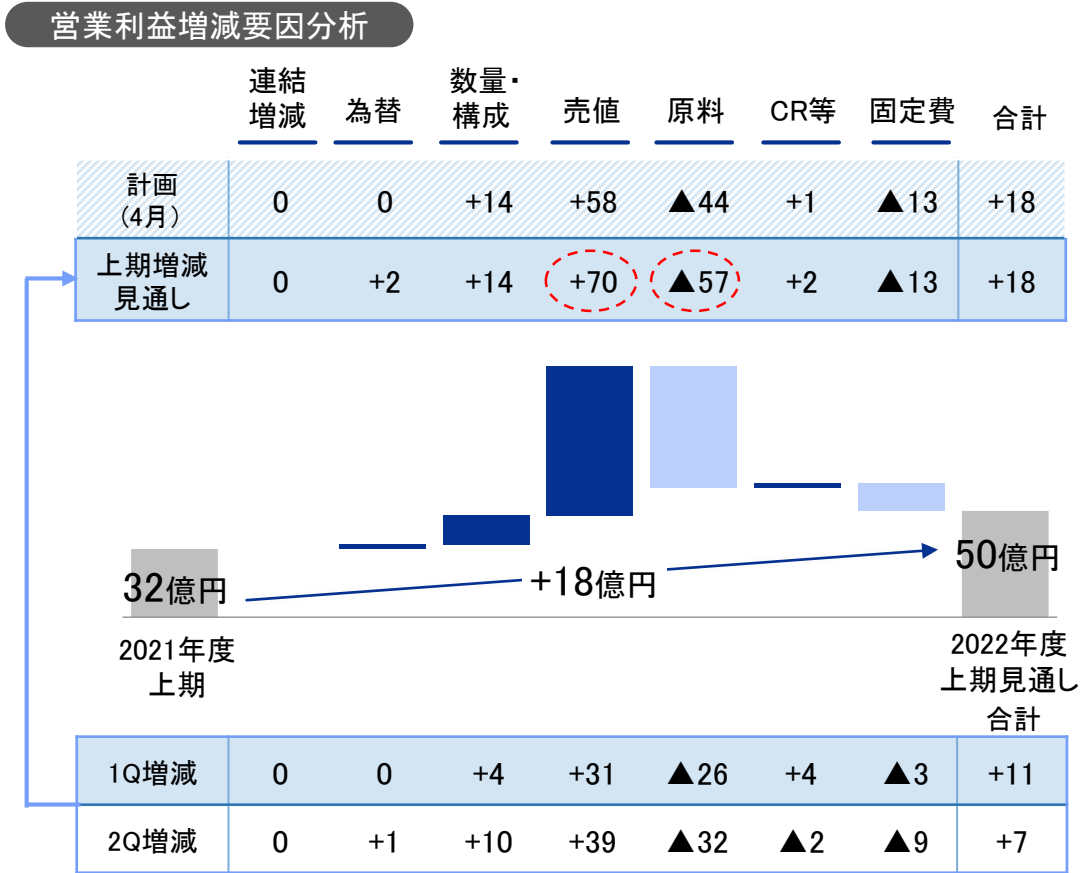
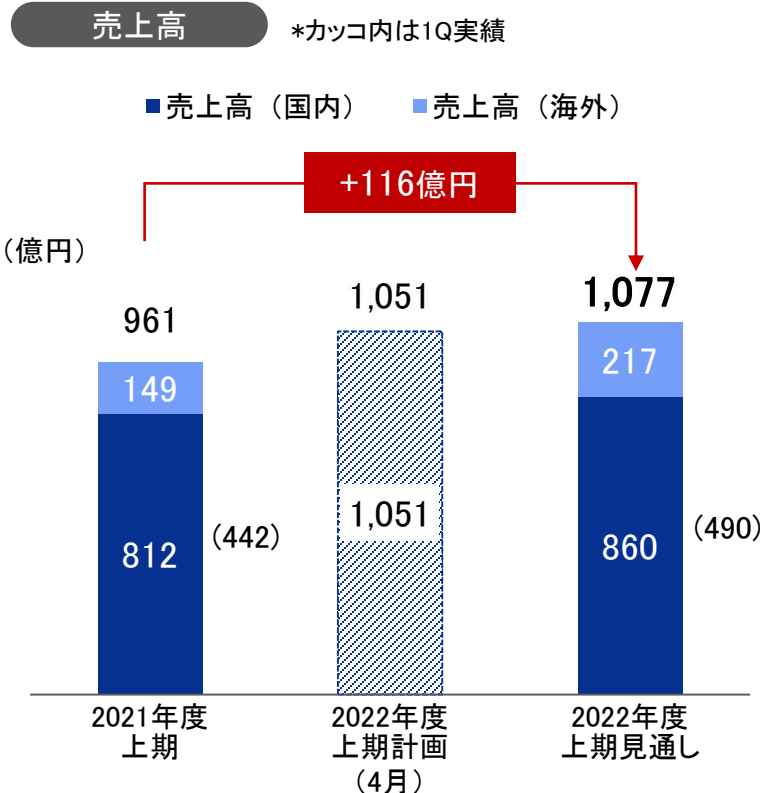
* 戸建受注中の搭載比率

*%は前年同期比



■原料高騰継続も、「売値改善」によるスプレッド確保を徹底。一定の需要回復を見込み、1Q営業利益は過去最高益を更新、上期も計画達成の見通し

- ・国内：住宅向け需要は堅調
- ・海外：航空機需要は緩やかに回復継続
- ・共通：半導体関連の設備投資需要は引続き堅調

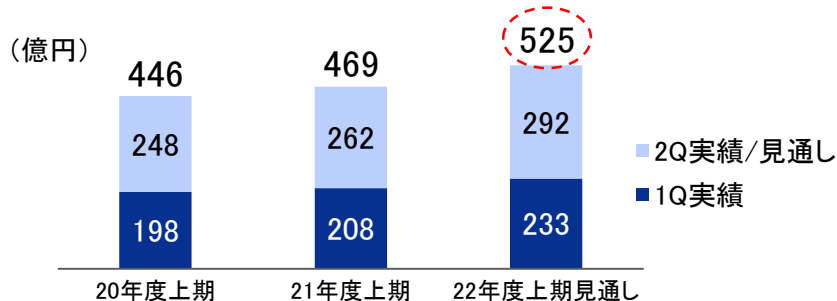


■ 戦略3分野とも主に売値改善効果により増収見通し

戦略3分野の売上高推移と上期進捗状況

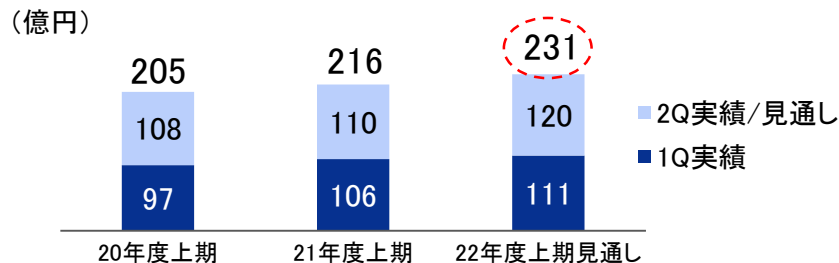
配管・インフラ

- 戸建需要は堅調、売値改善進展
- 半導体関連設備投資需要は引続き堅調(プラント管材)



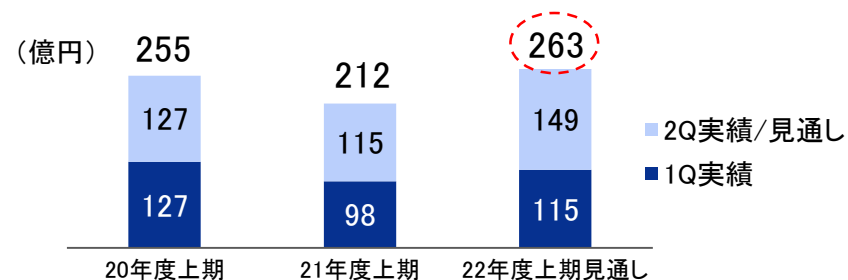
建築・住環境

- 新築・集合住宅及びリフォーム需要堅調
- 売値改善に注力(2Q)



機能材料

- シート: 航空機(国内線・改修)向け需要回復基調。医療用途展開は順調に進捗
- FFU:(枕木用途) 物件遅延続くも、北米向け需要は回復の兆し

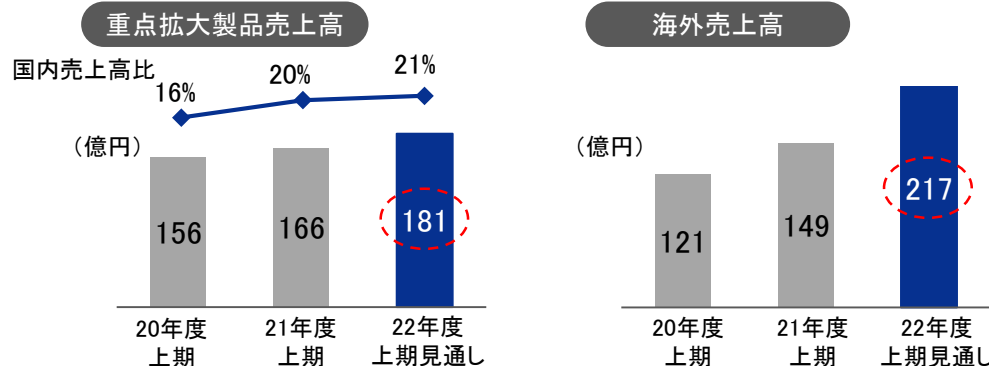


*1重点拡大製品: 高付加価値、かつ市場成長・代替が見込める製品

*2国内製品輸出含む

重点拡大製品*1売上高、海外売上高*2

- 重点拡大製品は配管・インフラが伸長。海外は航空機向けシート、プラント管材堅調

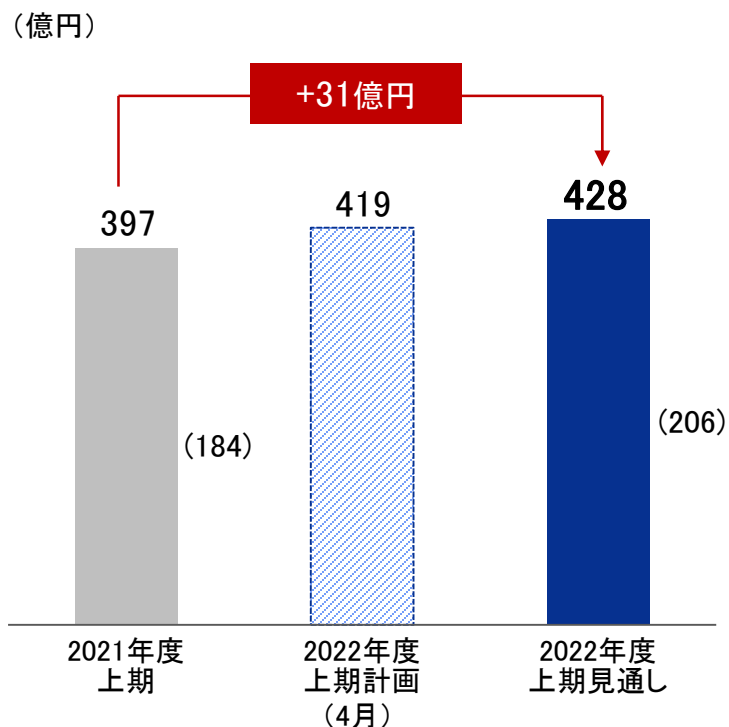


メディカル事業 上期業績見通し

- 米国COVID-19検査キット(新製品)承認遅延、中国ロックダウン影響を受けるも、国内検査薬・医療事業は堅調に推移
- 固定費も抑制し、上期営業利益計画達成(上期過去最高益更新)の見通し

売上高

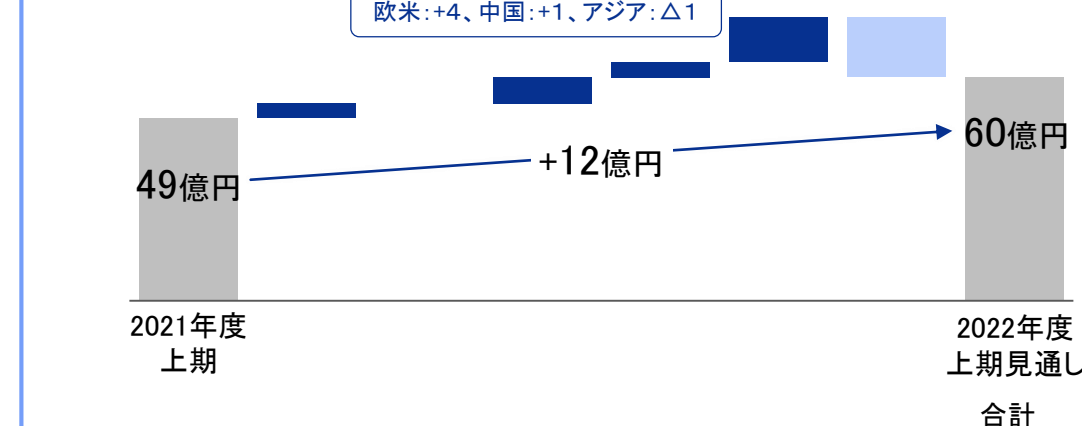
*カッコ内は1Q実績



営業利益増減要因分析

	為替	新規連結等	検査国内	検査海外	医療他	固定費	合計
計画 (4月)	+3	0	+6	+11	+10	▲19	+12
上期増減見通し	+4	0	+7	+4	+12	▲16	+12

欧米:+4、中国:+1、アジア:△1



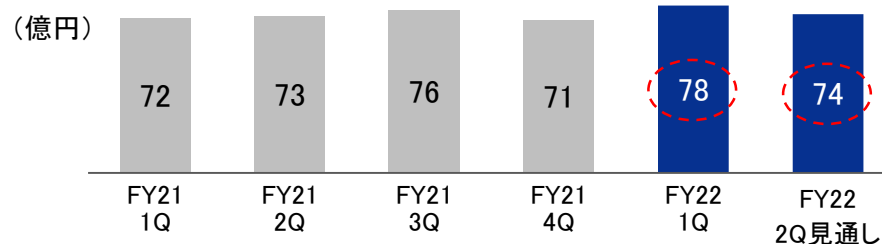
1Q増減	0	0	+4	▲1	+6	▲7	+4
2Q増減	+4	0	+3	+5	+5	▲9	+8

■国内外ともに外来検査の需要は引き続き回復基調。医療事業は計画通り順調に推移

事業別売上高推移と進捗状況

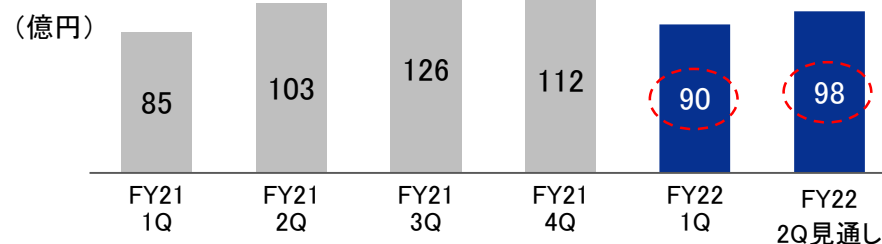
検査国内

- 一般の外来検査の需要回復に加え、COVID-19検査キット需要拡大



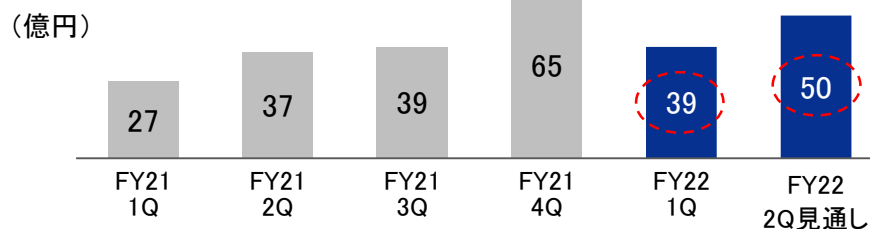
検査海外

- 中国ロックダウン影響により1Q外来検査の需要減
- 欧米での外来検査需要は回復基調
- アジア(シンガポール)検査需要減



医療(医薬・創薬支援・酵素)

- 医薬の新規受注は好調継続
- 創薬(受託試験)、酵素とも計画通りに進捗



新製品開発等の推移

- 米国COVID-19検査キット(新製品)承認遅延、一部再申請予定
- 国内 1Q:RSV-アデノ抗原検査薬(改良品)含む2製品上市
2Q:新型コロナ-FLU抗原検査薬(コンボキット)
新型コロナ-RSV抗原検査薬(コンボキット) 上市予定
- 遺伝子検査センター(米国) 機器&ソフトウェア開発体制増強、加速

2022年度第1四半期

決算内容

連結対象会社数	2022年3月末	2022年6月末
連結会社	155社	155社
持分法会社	8社	8社

損益概要

(億円)		2021年度1Q	2022年度1Q	増減
売上高		2,486	2,823	+337
売上総利益		779	845	+66
売上総利益率		31.4%	30.0%	▲1.4%
販売費および一般管理費		668	707	+39
営業利益		111	138	+27
持分法投資損益		3	0	▲2
その他営業外損益		17	75	+58
経常利益		131	214	+83
特別利益		63	-	▲63
特別損失		3	5	+1
税引前利益		190	209	+19
法人税等		62	61	▲2
非支配株主に帰属する四半期純利益		2	3	+1
親会社株主に帰属する四半期純利益		125	146	+20
為替レート (期中平均)	米ドル	109円	130円	
	ユーロ	132円	138円	

為替差損益 +55

株式売却分 ▲63

貸借対照表 -資産-

(億円)	2022年 3月末	2022年 6月末	増減
現金及び預金	1,445	1,077	▲368
売上債権	1,865	1,785	▲80
棚卸資産	2,438	2,699	+260
その他流動資産	346	395	+50
有形固定資産	3,653	3,773	+120
無形固定資産	467	485	+17
投資有価証券	1,307	1,308	+1
投資その他の資産	468	483	+15
資産合計	11,989	12,004	+15

棚卸資産(B/S科目)	2022年 6月末	増減
建売住宅(製品)	280	+22
造成済土地(分譲土地)	546	▲7
造成中土地(仕掛品)	132	+27
工事中住宅(仕掛品)	375	+64
部材等(原材料)	78	+13
住宅計	1,411	+119
非住宅計(製品等)	1,288	+141
棚卸資産計	2,699	+260

取得 +145、減価償却 ▲103、
為替 +83

為替影響 +247
▶ 実質: ▲233

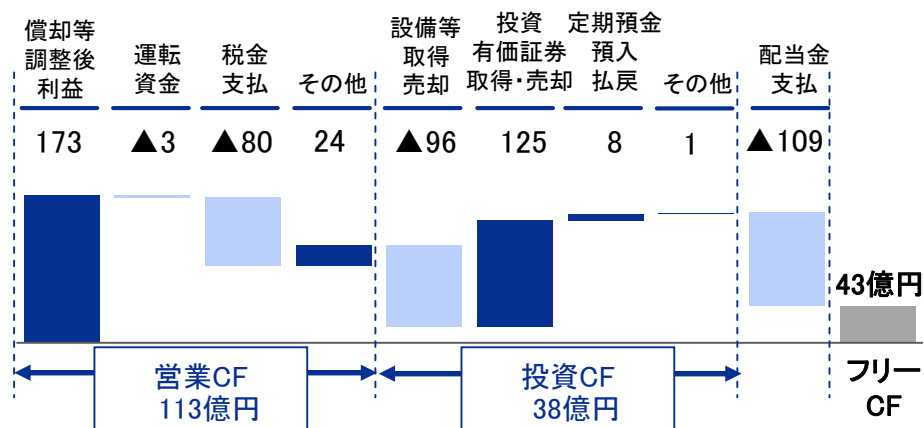
貸借対照表 -負債・純資産-

(億円)	2022年3月末	2022年6月末	増減	
無利子負債	3,736	3,697	▲39	
有利子負債	1,226	1,236	+10	
(ネット有利子負債)	(▲220)	(159)	(378)	
負債合計	4,962	4,932	▲29	
資本金等	2,090	2,085	▲6	
利益剰余金	4,480	4,382	▲98	当期純利益 +146
自己株式	▲446	▲453	▲7	配当金支払 ▲111
有価証券評価差額金	337	339	+2	自己株式消却 ▲132
非支配株主持分	281	277	▲4	消却 +132
その他純資産	285	442	+157	取得 ▲141
純資産合計	7,028	7,071	+44	
負債・純資産合計	11,989	12,004	+15	
自己資本比率	56.3%	56.6%	+0.3%	為替換算調整勘定 +160
D/Eレシオ(ネット)	▲0.03	0.02	+0.06	

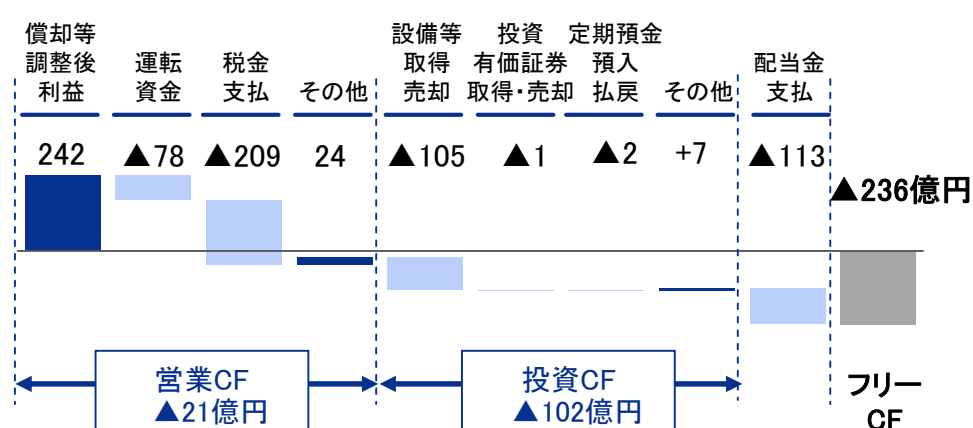
連結キャッシュ・フロー

(億円)	2021年度1Q	2022年度1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	113	▲21
投資活動によるキャッシュ・フロー	38	▲102
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲177	▲285
現金及び現金同等物の増減額	▲25	▲376
現金及び現金同等物の期末残高	742	961
フリーキャッシュ・フロー ＝営業活動CF＋投資活動CF－配当金支払	43	▲236

2021年度1Q フリーCF



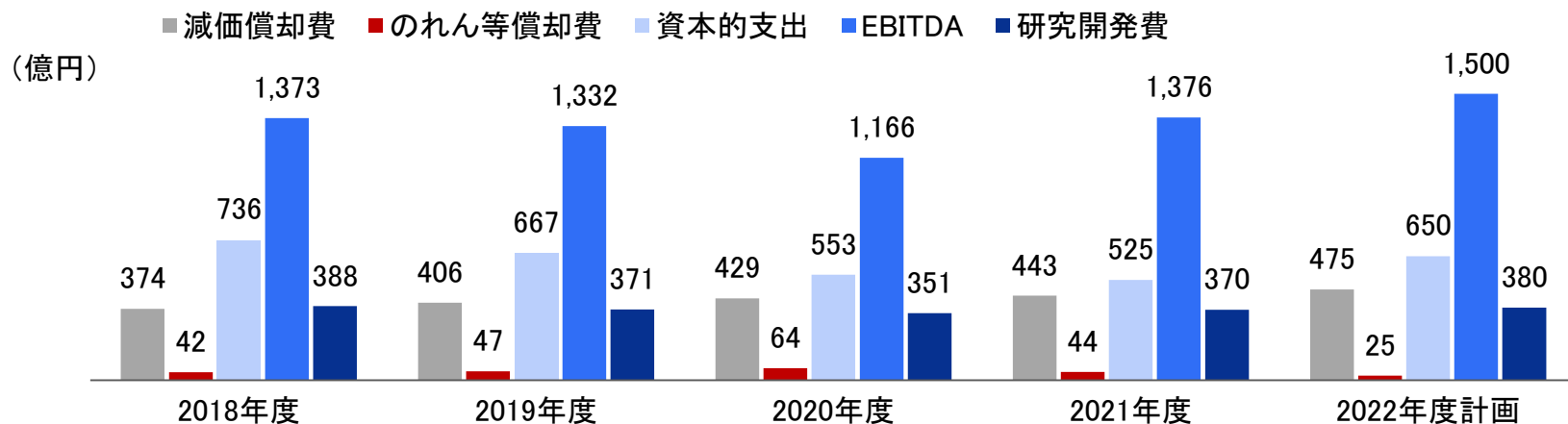
2022年度1Q フリーCF



減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2021年度 1Q	2022年度 1Q	増減	2021年度 通期	2022年度 通期計画	増減
減価償却費	107	114	+8	443	475	+32
のれん等償却費	16	6	▲10	44	25	▲19
資本的支出	119	164	+45	525	650	+125
EBITDA	234	259	+25	1,376	1,500	+124
研究開発費	86	92	+6	370	380	+10

減価償却費・資本的支出・研究開発費推移



*1 減価償却費はM&Aによる無形資産の償却費は含まず

*2 のれん等償却費 = のれん償却費+M&Aによる無形資産の償却費

*3 EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん等償却費

住宅カンパニー実績・計画について

1. 住宅事業の主要データ

		2022年度		2021年度		
		1Q	上期見通し	1Q	上期	下期
連結	売上高(億円)	1,157	2,630	1,055	2,498	2,654
	住宅	766	1,787	687	1,716	1,831
	リフォーム	212	481	206	459	462
	その他	179	362	162	324	361
	不動産	128	263	121	247	258
	住生活サービス	17	38	18	38	41
	まちづくり	26	43	17	28	51
	海外	4	10	3	6	6
その他	1.販売棟数(棟)	2,070	5,330	1,860	5,040	5,370
	戸建	1,985	4,980	1,805	4,830	5,060
	請負	1,660	4,195	1,500	4,075	4,330
	建売	325	785	305	755	730
	アパート等	85	350	55	210	310
	2.主なデータ					
	単価<全国販社・戸建>(百万円)	32.9	-	31.3	31.6	32.1
	坪単価<全国販社・戸建>(万円)	93.7	-	89.7	89.5	90.7
	床面積<全国販社・戸建>(㎡)	115.8	-	115.4	116.4	116.8
	展示場数(棟)	-	431	-	435	430
営業人員数(人)	2,530	2,465	2,620	2,533	2,354	

住宅カンパニー実績・計画について

2. 受注状況等

(百万円)

		2022年度		2021年度			2020年度	
		1Q	上期見通し	1Q	上期	下期	上期	下期
新築・ リフォーム	期初受注残	185,000	-	184,800	184,800	192,500	205,400	194,500
	伸び率	±0%	-	▲10%	▲10%	▲1%	▲6%	▲11%
	新規受注	96,543	212,286	91,898	200,607	198,850	175,319	190,806
	伸び率	+5%	+6%	+31%	+14%	+4%	▲14%	▲1%
	売上高	86,243	202,986	77,698	192,907	206,350	186,219	200,506
	伸び率	+11%	+5%	+2%	+4%	+3%	▲10%	▲2%
	期末受注残	195,300	194,300	199,000	192,500	185,000	194,500	184,800
	伸び率	▲2%	+1%	±0%	▲1%	±0%	▲11%	▲10%

3. 住宅着工戸数

(戸)

	2022年度		2021年度		
	1Q	上期見通し	1Q	上期	下期
住宅着工戸数	212,200	427,900	221,011	445,674	420,235
上記のうち持家+分譲戸建着工(=A)	99,100	200,700	107,961	220,321	205,082
当社戸建販売棟数(=B)	1,985	4,980	1,805	4,830	5,060
当社シェア(=B/A)	2.0%	2.5%	1.7%	2.2%	2.5%

*2022年度1Q以降の「住宅着工戸数」と「持家+分譲戸建着工」については見通し

4. スマート系仕様装着比率

	2022年度		2021年度		
	1Q	上期見通し	1Q	上期	下期
太陽光発電搭載	87%	88%	83%	83%	84%
蓄電池搭載比率	80%	81%	69%	69%	74%
快適エアリー	72%	73%	73%	72%	72%

スライドに記載されている見込、計画、見通しなど歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて作成されております。従って、実際の業績は、様々な重要な要素の変化により大きく異なる結果になりうることを、ご承知おきください。

* 本資料の億円表記の数値に関しては、億円未満を四捨五入で表示しています。